

## 家畜生体機構学特論(2 単位)

担当者氏名 木村順平

### ◆学習・教育目標（到達目標を記載）

家畜の“からだ”の機能と構造について、様々な視点から理解を深める。野生動物から人為的に家畜化された、かれらの本来の生き様とは何なのか。草食獣と肉食獣との比較、鳥類と哺乳動物との比較、歩行様式の差異などを通して、家畜・家禽の“からだ”の機能と形態について学習する。

### ◆取り扱う領域（キーワードで記載）

比較解剖学

機能形態学

哺乳類学

### ◆授業の進行等について

|    | テーマ         | 内 容   | 準備学習(予習復習)等の内容と分量  |
|----|-------------|---|--|
| 1  | 家畜とは        | ・ 家畜の分類学的、機能・形態学的特徴                         | ◎本授業のねらいは、哺乳動物一般、鳥類一般および家畜・家禽の“からだ”の機能・形態学的特徴についての理解を深める事である。担当教員と相談の上、決定したテーマについて大学院生自らが発表を実施すべく、内容の検討、プレゼンテーション技法の修得を行う。◎事前の学習により講師に質問するなどして、授業内容を理解するように努めること。また、各講義では、講義内容のパワーポイントファイルを配布するので、講義後ファイルを参考にして復習すること。 |
| 2  | 哺乳動物とは      | ・ 哺乳動物の分類学的、機能・形態学的特徴                       |  |
| 3  | 鳥類とは        | ・ 鳥類および家禽の分類学的、機能・形態学的特徴                    |  |
| 4  | 運動器と歩行様式（1） | ・ 骨格系の形態学的特徴と機能                             |  |
| 5  | 運動器と歩行様式（2） | ・ 筋肉系の形態学的特徴と機能                             |  |
| 6  | 生殖器と生存戦略（1） | ・ 生殖器の機能・形態学的特徴                             |  |
|    | 生殖器と生存戦略（2） |   |  |
| 7  | 生殖器と生存戦略（3） | ・ 生殖器の形態と適応との関係                             |  |
|    | 消化器（1）      |   |  |
| 8  | 消化器（2）      | ・ 生殖器の形態と生存戦略との関係                           |  |
| 9  | 消化器（3）      | ・ 消化器の機能・形態学的特徴                             |  |
| 10 | 消化器（4）      | ・ 肉食獣の機能・形態                                 |  |
| 11 | 院生による発表-1   | ・ 草食獣の機能・形態                                 |  |
| 12 |             | ・ 肉食獣と草食獣の機能・形態比較                           |  |
| 13 | 院生による発表-2   | ・ 家畜または野生動物から一種を選び、その分類、形態、機能的特徴について口頭発表する。 |  |
| 14 | 院生による発表-3   | ・ 家畜または野生動物から一種を選び、その分類、形態、機能的特徴について口頭発表する。 |  |
| 15 |             | ・ 家畜または野生動物から一種を選び、その分類、形態、機能的特徴について口頭発表する。 |  |

### ◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

適宜、資料を配布

### ◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

哺乳類の生物学(2)形態/大泰司紀之/東京大学出版会(1998)

楽しい解剖学-ぼくとチョビの体のちがいを-/佐々木文彦/学窓社(2007)

これから学会発表する若者のために-ポスターと口頭のプレゼン技術-/酒井聡樹/共立出版(2010)  
哺乳類の進化/遠藤秀紀/東京大学出版会(2002)

---

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

小テスト（50点）・課題に対する発表（50点）

---

◆オフィスアワー

質問等があれば随時メールにて受け付けます。

---

◆その他受講上の注意事項

課題についての発表が受講学生の創意工夫でなされることを期待します。また、“からだ”を構成する解剖学用語など最低限の術語を英語で理解する努力も必要です。

---